

凡 例

1. 区分・配列

5種類に区分し、それぞれ次のように配列した。

- (1) 活字本 明治以降に国内で出版された洋装本と在外邦人の日本語出版物 分類順に配列
- (2) 郷土資料 活字本のうち富山県に関する本 分類順に配列
- (3) 和漢書 明治中頃までに出版された刊本または写本で和装本 書名の五十音順に配列
- (4) 洋書 外国で出版された本 分類順に配列
- (5) 雑誌 誌名の五十音順に配列

2. 分類

日本十進分類法第8版に準拠した。但し、日本史と地理については一部変更して使用。郷土資料は富山県郷土資料分類表第3版に準拠した。

3. 目録の記述

(1) 活字本・郷土資料・洋書

1冊を1件として記述

(2) 和漢書

- ・既製のタトウに納め、これを1件として記述。タトウ1函には平均4～5冊納まっている。
- ・巻次の「巻2」というのは本文にある巻次で、第2冊目という意味ではない。
- ・書名は原則として内題を採り、発行年は刊刻年を採らず印刷発行年を採った。
- ・出版者は印刷発行者とし、複数人あるときは奥付の末尾にある版元を代表とした。
- ・刊本写本の別は、出版地・出版者の項に記載した。

(3) 雑誌

- ・既製のファイルボックスに納め、これを1件として記述。
- ・出版者は同じ函のうち最も古い巻号に記載されているものを採った。